

京都府子育て支援審議会・京都府少子化対策審議会
第1回合同審議会 開催結果

日 時 令和元年8月5日（月曜日） 午後2時～午後4時

場 所 京都ガーデンパレス2階 葵の間

出席者 秋田委員・足立委員・伊豆田委員・伊藤委員・今西委員・岩前委員・内山委員・岡崎委員・櫛田委員・楠委員・杉岡委員・杉本委員・田中(美)委員・田中(律)委員・田村委員・津崎委員・中田委員・縄手委員・野々村委員（代理：長澤氏）・平野委員・福井委員・藤井委員・松井委員・安田委員・山岡委員・山田(聡)委員・吉貞委員・吉田委員

議事内容

● **両審議会会長の選出について**

出席委員における立候補者並びに推薦者がいなかったことから、事務局提案により岡崎委員を会長に選出

● 「京都府子育て支援新計画」「京都府少子化対策基本計画」の検討について

(主な意見)

□ライフデザイン及び結婚への支援について

- ・学生と接していて独身を希望する者や、少子化に対する危機感を持たない者が多いと感じる。
- ・子育てを含むライフデザインを考え、就活等を行うことができるよう、中高生の段階から、男女ともに、少子化や子育てに関する知識が身につくよう教育の機会を増やすべき。

□妊娠及び出産への支援について

- ・学生が子どもを持ちたいと思わないのは、子育てに苦労している親の姿を見ているからではないか。親の負担軽減が必要。
- ・初めて子どもを持つ夫婦の中には、親になることがどういうことかを学ぶ機会が少ないまま親になる人が多いように思われる。
- ・妊娠中から、夫婦2人でどういう家庭をつくるか考えるべき。

□子育て支援について

- ・保護者にとって子育てに関する相談相手が少なくなっている要因は、3世代で同居している世帯の減少が原因ではないか。
- ・子育て環境を良くしていくためには、家族や地域の人を含め、子育てに関わるを増やしていくべき。
- ・子育て家庭の支援については、時間がある人、経験がある人を活用し、マッチングする仕組みが必要。
- ・人に助けを求めたり、人の役に立ったりするなど、人と人とのコミュニケーションを育む関係づくりが大切。
- ・NPOの活動をする中で、コミュニティの大切さを現場で感じている。
- ・お母さんが心に余裕を持って、第1子から子育てを楽しめる雰囲気を作っていくことが大事。
- ・保育士や教師等の子育てを支援する側の労働環境の厳しさが問題だと感じる。子育てを支援する側も、自らの家族と過ごす時間が取れるような環境整備が必要。
- ・土日に働いている両親が子どもを預けられる環境の充実が必要。
- ・子育て支援においては、親に対する支援だけでなく、子ども自身に向けた支援を充実してほしい。
- ・子どもが自信を持って、自らの個性に気づくような、子ども自身で育っていく力を育む機会が重要。
- ・子どもを預けたい時に預けることができる環境づくりが保護者の働きやすさにつながる。
- ・子育てに関する情報をアナログとデジタルの両面で取得できるようにすべき。
- ・子育てに係るサービスを提供する事業所や法人が、自らが日本一のサービスを提供すると考え、実践していくことが重要。

□子どもの社会環境について

- ・社会的養護を必要とする子どもの最善の利益を守るため、どのような環境が適切かを考えるべき。

□その他全般

- ・今後、外国人労働者が増えてくることを鑑み、外国人が住みやすいまちにするという発想もいるのではないか
- ・現行の計画は、親になる前や、親になった後の支援に対し、ハード・ソフトの両方がバランス良く書かれている。